

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 委員会報告／海外ニュース1
- 2006年洋書輸入統計〔前編〕2
- 洋書の世界5

委員会報告

委員長会議

2007年3月20日（火）

委員会報告

総務委員会

来期予算検討。総務委員会案を一部修正し、了承。

理事会に諮る。

文化厚生委員会

前回の72会ゴルフコンペには村田会長はじめ19名が参加。TIBF開催時に来日する韓国洋書輸入協会との懇親会、ゴルフコンペを企画する。

事業委員会

第3回古書会館セールを開催中。出展社、商品とも若干減。

ホームページ委員会

ダイレクトリーの広告は前回より増える見込み。

委員会報告 <文化厚生委員会>

第124回 72会ゴルフコンペ

2007年3月10日（土）快晴

会場：龍ヶ崎カントリー倶楽部（茨城県龍ヶ崎市）

参加者：19名（15社）

<成績表>

優勝 金原 優（医学書院）

グロス ハンデ ネット

84 10.8 73.2

2位 根来恒男（ケイラインロジスティクス） 95 19.2 75.8

3位 山川隆司（ユサコ） 100 24 76

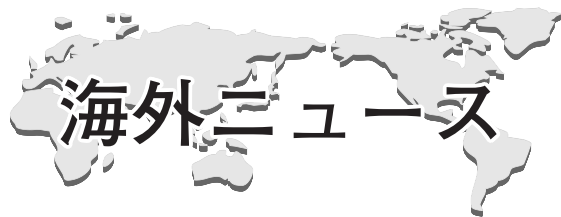
4位 西山幸児（西山洋書） 100 24 76

5位 平子真治（エルゼビアジャパン） 99 22.8 76.2

ベストグロス 金原 優（医学書院） 84（OUT 39 IN 45）

ドラコン 西山久吉 金原 優 根来恒男 楠本 忍

ニアピン 西山久吉 山下志信 石渡 昇 根来恒男



◆ ハリー・ポッター、フランスの切手に登場

フランスの郵政局 La Poste はハリー・ポッターとその友人を切手と関連文具に登場させた。

先週末より、メガネをかけた魔法使いの少年が国内速達郵便用の切手となって発売されている。ロン・ウィーズリー（ハリーの友人）は国内普通郵便、ハーマイオニー・グレンジャー（同じくハリーの友人）は国

際郵便の切手で登場。

ハリー・ポッターの切手を発売したのはフランスが初めてではない。オーストラリア、マン島、台湾などが、このJ・K・ローリングの生み出したヒーローを切手にしている。

シリーズ7巻目にして最終巻である"Harry Potter and the Deathly Hallows"は、ホグワーツ魔法魔術学校で最終年度を過ごすハリーの物語で、7月21日に発売される予定である。

4つの映画化作品もヒットし、5作目である "Harry Potter and the Order of the Phoenix"（ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団）の映画化作品も7月13日に公開される。

Book Business <http://www.bookbusinessmag.com>
MARCH/13/2007 （ニュース提供 丸善：洋書部）

2006年(平成18年)1月～12月の洋書輸入統計(前編)

荒 木 亮 一

財務省が発表する「日本貿易統計」2006年12月速報から洋書関連の数値を抽出、品目別、国別にまとめたので、多少の分析を加えてご報告したい。(註：ここでいう「輸入額」または「単価」はCIF or C&Fの原価である。)

◎2006年度は円安のスタートとなった。1月から5月にかけて僅かな変動はみられたが、年度内の変動率は2%～3%幅の円安である。前年比で5主要通貨の銀行公示中値の平均値をみると、US \$は6.5%、Stg. £は9.1%、EUROは11.1%、CA \$が大きく14.4%、S. Fr. が6.1%の円安であった。決済通貨の使用率を考慮すると、影響度としては前年比7%前後の円安と考える。輸入額からみた2006年度の伸び率は、前年比約3%なので多少低調であったようにみえる。因に、2006年の円安の前年比の幅は、2005年の前年比の幅と比べると、US \$、Stg. £は大きく、EUROは小さかった。

1. 主要品目の輸入通関額について

(表1-a) 2005/2006年輸入通関統計(単位 百万円)

分類	品目	05年1月～12月 輸入価格	06年1月～12月 輸入価格	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	337	173	51.3%	0.3%
	辞典および事典	241	154	63.9%	0.3%
	その他のもの(書籍)	30,111	30,787	102.2%	57.8%
	幼児用の絵本及び習字本	4,078	4,546	111.5%	8.5%
	小計(1)	34,767	35,660	102.6%	66.9%
	楽譜	742	727	98.0%	1.4%
新聞・ 雑誌そ の他の 定期刊 行物	地図/海図/地球儀	964	1,028	106.6%	1.9%
	小計(2)	1,706	1,775	102.9%	3.3%
	一週に4回以上 発行するもの	66	69	104.5%	0.1%
	雑誌その他の定期刊 行物	15,287	16,190	105.9%	30.4%
	小計(3)	15,353	16,259	105.9%	30.5%
合計	(1)+(3)	50,120	51,919	103.6%	97.4%
合計	(1)+(2)+(3)	51,826	53,674	103.6%	100.7%

◎「表1-a」は全体像である。洋書関連商品の輸入は前年比で2005年が約3%減、2006年は3%増となった。2007年は金利が上がり、自動車や電機産業では昨年度を上回るベース・アップの交渉が始まる。新政権がスタートしてから、支持率のアップ・アンド・ダ

ウンのなか、景気は上向くのだろうか。2008年へ向けての大幅増税が進んでいる。昨年のレポートに「ここで表にまとめた輸入統計のデータから新しいステップへの“The Philosopher's Stone(賢者の石)”を見つけていただきたい」と書いたが、今年は新しい“Seeds”を発見していただきたい。

◎「書籍類」輸入の絶対額はほぼ10年来レベルオフが続いている。

「単一シート」はその品目の性質上、アップ・アンド・ダウンがあることは容易に理解できる。

「辞典類」の輸入額についてみると、紙から電子へと媒体が移り、電子図書(電子ブック、CD-ROM)の普及が進む時代に入ってからこの10年来減少の一途を辿っている。しかし、電子辞書と従来の「辞書」を開いてみると、ページが一目で見渡せる「辞書」「辞典」をもっと読んで欲しいという気持ちがいつも湧いてくる。マルチメディア・データベースの機能は大量の情報を提供することができるが、読みたい情報のみを検索するので、他の情報まで視野に入らないことがあるのではないだろうか。

「書籍類」は、2001年～2003年に多少の増加をみたが、ほぼレベルオフの状況で、原価の値上げが反映されていないようで減少傾向だといえそうだ。国別では、2年連続で中国からの23%という2桁増加が顕著である。

「絵本」の輸入は順調に伸びている。中国からの輸入は前年比32%増、「絵本」輸入額の構成比は2005年は57%、2006年は67%と大きく上昇しているのが興味深い。

◎「雑誌・新聞」は、やはり電子ジャーナリズム、即ち、インターネットなどの情報通信メディアという媒体の普及による紙媒体の減少が続いているようである。1997年を100として、多少年ごとのアップ・アンド・ダウンはあるが、2006年は89(指数)、輸入額が高かった11年前の1996年を100とすると82(指数)になる計算だ。しかし、これは紙媒体がかなり健闘していると考えでもいいのではないだろうか。

◎「楽譜、地図／海図、地球儀」は、前年比が2005年は5%の伸び、2006年も約3%の伸びと、順調にマーケットを確保している。「地球儀」は世界情勢をしっかりと把握しておくために座右にそなえたい現代の必需品である。

(表1-b) 品目別輸入量(総重量と総冊数)

品目	輸入された「1Kg当たりの平均冊数」					
	'05総冊数	'05総重量 (Kg)	平均冊数 (Kg)	'06総冊数	'06総重量 (Kg)	平均冊数 (Kg)
(書籍)						
単一シートのもの	～	432,652	～	～	255,950	～
辞典及び事典	191,576	150,100	1.3	161,645	118,896	1.4
書籍など	～	10,885,143	～	～	10,038,883	～
幼児用の絵本及び習字本	22,732,204	3,615,969	6.3	23,735,765	4,148,255	5.7
小計1(辞典+絵本)	22,923,780	3,766,069	6.1	23,897,410	4,267,151	5.6
(新聞・雑誌)						
一週に4回以上発行するもの	509,178	42,274	12.0	516,738	39,908	12.9
新聞・雑誌その他の定期刊行物	22,675,780	6,064,499	3.7	15,941,631	4,533,482	3.5
小計2	23,184,958	6,106,773	3.8	16,458,369	4,573,390	3.6
合計(1+2)	46,108,738	9,872,842	4.7	40,355,779	8,840,541	4.6

◎「辞典及び事典」は、輸入額と冊数の減少率を比較してみると、輸入額の減少率が高いことから単価の低い商品が多かったと推測できる。

「幼児用の絵本」は輸入額 vs. 冊数の増加率から、単価の高い商品の多かったことが推測出来る。

「一週に4回以上発行するもの」は例年とあまり変わっていない。

「新聞・雑誌」は、輸入額が約6%アップであるのに対し、冊数は30%減である。原価の値上がりによる部数の減少なのだろうか。

(表1-c) 品目別輸入量(総冊数と平均単価/冊)

品目	輸入された「総冊数と平均単価」					
	'05総冊数	'06総冊数	前年比	'05年平均単価	'06年平均単価	前年比
(書籍)						
単一シートのもの	～	～	～	～	～	～
辞典および事典	191,576	161,645	84%	¥1,258	¥953	76%
書籍など	～	～	～	～	～	～
幼児用の絵本及び習字本	22,732,204	23,735,765	104%	¥179	¥192	107%
小計	22,923,780	23,897,410	104%	¥188	¥197	104%
(新聞・雑誌)						
一週に4回以上発行するもの	509,178	516,738	101%	¥130	¥134	103%
新聞・雑誌その他の定期刊行物	22,675,780	15,941,631	70%	¥674	¥1,016	151%
小計	23,184,958	16,458,369	71%	¥662	¥988	149%
合計	46,108,738	40,355,779	88%	¥427	¥519	122%

註:「単一シート」、「書籍」は冊数の統計が発表されていない。

◎輸入額を輸入冊数で除した概算の「平均単価」一覧表である。

「辞典及び事典」の輸入冊数と平均単価が共に低いことから幾つかの推論が成り立つ。ペーパーバックの手頃な辞書類の輸入が多かったこと、多くの英英辞典が電子辞書に組み込まれたこと、エンサイクロペディアなどは収納、検索に便利な"CD-ROM"化が進んだこと、などである。前回は述べたが、成人の英語クラスで生徒のほぼ100%が電子辞書を利用している。

「幼児用絵本」は、2001年以来平均単価が安定していたが、2005年に約24%の急落、2006年は7%の回復、だが依然として前々年度を18%ほど下回っている。これは、欧州諸国の出版社が、東南アジア諸国を通して製本またはリプリント版としての輸出を行っていることを示唆しているようである。構成比をみると、中国からの輸入が67%、香港から13%、タイは3.4%、シンガポールは3.3%である。因に、アメリカからの輸入は7%、英国から3.5%、イタリアが0.2%、オランダ0.06%、フランスが“0”と欧州からの数値は非常に低い。

「一週に4回以上発行するもの」については、輸入部数が1%増、平均単価は3%の上昇と安定している。

「新聞・雑誌その他の定期刊行物」は、2001年の最高値¥1,092に近づく原価高であった。部数は30%の減少、一方、単価は51%アップである。紙媒体と電子媒体の置き合いによる現象であろうか。

2. 最近10年間の輸入額一覧

(表2-a) 年間の輸入通関額の推移(単位: 百万円)

品目	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞その他の定期刊行物			合計		
	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数
1997	35,453	121%	100	18,220	92%	100	53,673	109%	100
1998	35,253	99%	99	19,056	105%	105	54,309	101%	101
1999	35,151	100%	99	18,029	95%	99	53,180	98%	99
2000	33,190	94%	94	16,542	92%	91	49,732	94%	93
2001	39,244	118%	111	19,125	116%	105	58,369	117%	109
2002	41,243	105%	116	15,892	83%	87	57,135	98%	106
2003	40,585	98%	114	16,756	105%	92	57,341	100%	107
2004	37,086	91%	105	14,575	87%	80	51,661	90%	96
2005	34,767	94%	98	15,353	105%	84	50,120	97%	93
2006	35,660	103%	101	16,259	106%	89	51,919	104%	97

◎書籍類、雑誌・新聞類の輸入額は共にレベルオフである。例年どおり、原価の平均上昇率を「2%/年」と仮定すると(為替の変動は考慮せず)、昨年の報告と同様に、この10年で約19%のマイナス・インパクトがあったということになる。

(表2-b) 10年間の品目別推移 (単位 百万円)

品目 暦年	単一シート		辞典		書籍		絵本	
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
1997	121	84%	545	73%	31,868	112%	2,919	～
1998	122	101%	345	63%	32,603	102%	2,183	75%
1999	121	99%	341	99%	28,302	87%	2,387	109%
2000	116	96%	225	66%	30,282	107%	2,567	108%
2001	271	234%	283	126%	36,255	120%	2,435	95%
2002	132	49%	333	118%	37,636	104%	3,142	129%
2003	212	161%	292	88%	36,673	97%	3,401	108%
2004	284	134%	316	95%	32,730	89%	3,756	110%
2005	337	119%	241	76%	30,111	92%	4,078	109%
2006	173	51%	154	64%	30,787	102%	4,546	111%

◎「単一シート」は、2005年までは順調な年が多かったが、2006年は前年比51%と下がった。もうひとつの急落は2002年の前年比49%である。何れもレポート年前年の輸入量が多い。

「辞典」類は統落である。やはり、紙媒体と電子媒体の闘ぎ合いの悲劇であろうか。昨年も述べたが、利便性よりも、まとめられた情報や知識が一度に目に入るページを開き、それらを見て読む楽しみを知ってくれることを望んで止まない。

「書籍」類は横ばい状況で、専門書や一般書のマーケットは安定時代のようなのである。

「幼児用の絵本」は2006年も前年比11%の伸びである。シート輸入のなかの「絵本」の比率も調べてみたいと思う。

(表2-b続き) 10年間の品目別推移 (単位 百万円)

品目 暦年	雑誌・新聞		楽譜・地図		合計	
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
1997	18,220	92%	854	～	54,527	111%
1998	19,056	105%	1,523	178%	55,832	102%
1999	18,029	95%	1,277	84%	50,457	90%
2000	16,542	92%	1,153	90%	50,885	101%
2001	19,125	116%	1,451	126%	59,820	118%
2002	15,892	83%	1,414	97%	58,549	98%
2003	16,756	105%	1,575	111%	58,909	101%
2004	14,575	87%	1,621	103%	53,282	90%
2005	15,353	105%	1,706	105%	51,826	97%
2006	16,259	106%	1,755	103%	53,674	104%

註：1996年は絵本、楽譜等が分類されていなかった。

◎「雑誌・新聞」は外資系との競合、そして電子ジャーナルという新しい媒体の出現、景気の低迷などから、大きな伸びは期待できないと思われる。

「楽譜」と「地図／地球儀」は、絶対額は小さいが安定したマーケットであり、それぞれが"a niche"で

ある。特に、地球儀は、地球上のどこでも見易いように北極・南極を固定していないもの、また、電子化されたものなど、新しい商品がみられる。

(表3-a) 主要10ヶ国からの2006年輸入通関額 (単位 百万円)

品目 国名	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞その他の定期刊行物			計		
	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比
米	12,057	104%	34%	7,111	102%	44%	19,168	104%	37%
英	8,328	106%	23%	4,826	104%	30%	13,154	105%	25%
中国	5,294	123%	15%	128	40%	1%	5,422	118%	10%
香港	2,779	91%	8%	94	109%	1%	2,873	92%	6%
独	2,024	102%	6%	879	128%	5%	2,903	108%	6%
韓国	1,046	77%	3%	293	51%	2%	1,339	69%	3%
シンガポール	1,002	101%	3%	494	113%	3%	1,496	104%	3%
仏	1,098	102%	3%	270	92%	2%	1,368	100%	3%
オランダ	197	52%	1%	1,333	238%	8%	1,530	164%	3%
イタリア	306	98%	1%	209	107%	1%	515	102%	1%
小計	34,131	104%	96%	15,637	106%	96%	49,768	105%	96%
その他 の国	1,529	55%	4%	622	100%	4%	2,151	86%	4%
計	35,660	103%	100%	16,259	106%	100%	51,919	104%	100%

◎書籍類の構成比でみると、2005年とほぼ同様の輸入実績であった。米国前年比で1%増、英国は変わらず、中国が3%増、香港が1%減、独は変わらず、韓国は1%減などである。シンガポールの輸入額前年比は変わらないが、現地法人が活躍していた2000年の約6分の1に減少している。当時の現地を多少みて来たひとりとして動向が気になる。

(表3-b) 主要輸入元別輸入額対照表 (単位 1,000百万円)

品名/国名	米	英	EURO圏	東アジア	東南アジア	その他の国	合計
書籍類	12.0	8.3	3.8	9.3	1.6	0.7	35.7
雑誌類	7.1	4.8	2.8	0.5	0.5	0.5	16.2
合計	19.1	13.1	6.6	9.8	2.1	1.2	51.9
前年比	103%	105%	114%	98%	100%	100%	104%
'06構成比	37%	25%	13%	19%	4%	2%	100%
'05実績	18.5	12.5	5.8	10.0	2.1	1.2	50.1
'05構成比	37%	25%	12%	20%	4%	2%	100%

註1：EURO圏 は12カ国を含む。

註2：中国、香港、台湾、北朝鮮を東アジアとしてまとめた。

註3：シンガポール、タイ、マレーシアからインドまで10ヶ国を東南アジアとした。

◎昨年に続いて輸入額の多い国／地域別にまとめてみた。一時期の東南アジア諸国は欧米から輸入されるジャーナルの中継地点であったが、電子ジャーナルの普及などでその量が激減したようである。

(後編につづく)

雑感——洋書の世界で

(株)日本文献出版代表取締役
齋藤純生

私とスポーツ

今回が連載記事の最終稿となりますので、気軽な話題でオムニバス風に締め括ります。

母親に姉二人と軍務で父親不在の家庭で過ごした幼年時代、私は臆病で控えめな少年でした。子供同士の遊び仲間からいじめに遭うことの多い日常でしたが、或る時この窮状からの脱出を決意して、私は町の柔道場に足を向けました。以来休む事無く通った道場での数知れぬ試練を経た12年目、講道館四段の免許を手にすることが出来ました。辛い、厳しい稽古と、数々の試合への出場を重ねて学んだ最大の糧は、殊のほか頑強な体力と忍耐力、そして不屈の精神力ではなかったか、と思われます。高邁な武士道精神には及ばないとしても、この達成感は私に“為せば成る”と謂う自信を植え付けて呉れました。この体験は、やがて事業を進めた過程で出会った多くの欧米出版人との対応に当って、己が生粋の日本人である誇りを抱いて行動することの出来る自分へと導いて呉れた様に思われます。

事業経営に携わりますと、日々様々な問題に直面します。問題の軽重に拘わらず、経営は常に事態解決への最終判断が求められます。私にとっては、道場で培った“為せば成る”の達成感が自信となって役立ちました。柔道は決闘競技ですので試合で対決する相手の体位と特技、そして戦いの手法を予め把握することが多くの場合勝敗を左右することになります。私の経験では、勝敗の5割は試合直前の読みで決定づけられると言って過言ではありません。あらゆるスポーツで気力の優劣が勝敗を左右する一面であることは事実ですが、予め相手を如何に読切れるかは重要な要件となります。

昨今、柔道の大会では全日本選手権等を除きますと、多くの競技が体重別で進められますが、企業世界にハンデキャップは通用しません。そこで、実業の世界に例をとりますと、代表する出版社とその代理業務を執行する私の間には、多くの局面で主従の力関係が存在しましたが、国内で進める様々な施策を廻って交わされた論議の場で、私は常に日本市場を取り巻く伝統、文化そして日本人固有の価値観を前提に結論を引き出すことに努めました。あらゆる企業活動は今日、自由経済体制下で進行して居り、我々にとって職場は戦い

の場でもあります。そこで、柔道の試合では競技審判が“始め”の号令を下す時点で、対決する両者の力関係が対等であることを前提としております。然しながら、企業社会にあつての明らかな現実、直面する各取引相手企業の事業スケール上での差異でしょう。従って、経営は予め相手企業の力量を相対的に把握した上で対応する必要に迫られます。

スポーツを通じて私が出逢った友人仲間は、柔道は言うに及ばずラグビー、野球、相撲等の世界に及びました。2002年の十月、英国下院のレセプション・ルームで催された“米欧回覧実記”英訳版の出版記念会に、奥克彦氏が折田駐英大使を伴って出席なさいました。氏は嘗て早稲田大学ラグビー部で活躍したラグーですが、二年で退部して外交官試験への挑戦を決意し、大学卒業時に見事合格を果たして外務省に入省したキャリア官僚の一人です。記念会の翌日、ロンドンで著名なギャリック・クラブに招かれ氏と三時間余りの昼食を挟んで歓談する機会がありました。ロンドンの日本大使館で氏は当時広報文化センターの所長職にあり、通常業務の余暇を活用して英国内の学校を週3-4校訪問し、学生と日本の歴史、文化等を中心のテーマとした対話、討論をして居る旨を伺いました。肉弾相打つラグビー競技で鍛え抜かれた頑健な体力と気力を、氏はこの地道で、直向きな活動に生かし、やがて成人に至る英国の若者の間に芽生えるに違いない親日感の醸成に尽くす姿が伺えました。

昨今、外務省が本来果たすべき役割を廻り厳しい批判が各方面から寄せられて居りますが、この氏が進めて居りました草の根活動こそ、世界の外交舞台に身を置く日本の外交官が等しく留意すべき基本姿勢と謂えます。

ロンドンでの会合以来交わした氏との書信で、私が協力できる氏の活動支援策を如何に具体化するか協議を重ねました。そんな矢先の2002年11月30日早朝、香港滞在中であった私に、NHKのBS放送が思いも知らぬ奥克彦氏のイラク・テイクリートでの訃報を知らせるニュースを齎しました。私は啞然として一瞬言葉を失いました。この日本の希望の英才は、残念ながら生涯道半ばで世を去りましたが、業界には私が未だお目にかかる機会の無い多くの気鋭な若者が存在するに違い無く、各位の今後の益々のご活躍を願い筆を置くことに致します。

マグローヒル 科学技術百科事典 第10版

The McGraw-Hill Encyclopedia of Science & Technology

—収録項目7,100を誇る総合科学技術百科事典—

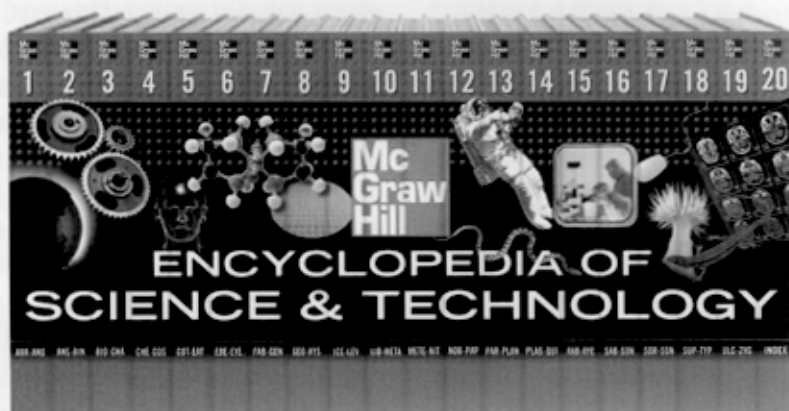
ISBN-13: 978-0071441438 / MHID: 0071441433

価格: US \$ 2,995 (2007年9月まで。10月以降US \$ 3,495)

出版予定: 2007年5月16日

ハードカバー(全20巻)/ウェブサイト: www.MHEST.com

「専門分野の技術教育を求めるあらゆる読者にとって、理解しやすく、有意義で幅広い解説を提供する」これは1960年に出版された初版の序文に記された、この百科事典編纂方針です。この方針は最新版でも命脈を保ち、執筆者、寄稿者に受け継がれています。第10版では、細胞生物学、分子生物学、IT技術、通信技術、ナノテクノロジー、地球環境科学、物質化学、宇宙学などの分野を中心に、掲載項目全般に渡って大幅な改訂がなされました。初版出版以来、50年近くにわたり信頼のおける総合的科学技術事典として高い評価を獲得し、日本ではこれまでに300以上の図書館や施設に導入されています。



- 各項目は幅広い資料に基づいて解説され、事前知識がなくても理解できるよう配慮
- 65,000を超える相互リファレンスを参照することで、より広く、より深い項目を参照可能
- 12,000を超えるイラスト、図面、画像と1,400に上る図表が実用的な理解を手助け
- アメリカの度量衡単位と国際単位を併記
- 江崎玲於奈をはじめとする35名のノーベル賞受賞者が寄稿
- 主要なテーマ、概念、人物ごとにまとめた分析索引と、各項目を87の大見出しにまとめた主題索引を併用することで、目的に応じた的確で幅広い情報検索が可能
- 使いやすさをより高めるために、ウェブサイト (<http://MHEST.com>) を新たに設け、科学やテクノロジーの進歩はもとより、各項目、グラフ、時宜を得たトピックスを定期的に更新



Education

問合せ:

マグローヒル・エデュケーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-12-3 アルカディアビル9F

Tel. 03-5298-7221 Fax. 03-5298-7224 e-mail: mhejpn@mcgraw-hill.co.jp